

特色ある学校



1. はじめに

本校は、福井県の県庁所在地福井市に、明治40年、福井県工業講習所として創設され、大正4年に福井県立工業学校と改称、その後、学制改革、統合分離独立を経て、昭和32年、福井県立福井工業高等学校となった。

昭和49年、県の新構想に基づく産業高校を新設する目的で、福井県立福井工業高等学校を吸収合併し、機械工学科、金属工学科、環境化学科、繊維工学科、色染化学科、電子工学科、情報技術科、衛生看護科の8学科、定員320名の福井県立科学技術高等学校となった。

その後、幾たびかの学科改編を行い、現在は、機械システム科、化学システム科、テキスタイルデザイン科、電子電気科、情報工学科、衛生看護科の6学科、生徒数598名を擁し、創立96年を迎える伝統ある学校である。

部活動では、自転車部、射撃部、新体操部が毎年インターハイを中心に全国大会に出場するなど、全30部に約7割の生徒が参加、熱心に取り組んでいる。

2. 資格取得とジュニアマイスター顕彰

本校では、目的意識を持たせ、学習意欲の向上を図るため、学校を挙げて資格取得を奨

本校の 資格取得指導について

—ジュニアマイスター顕彰制度とのかかわり—

福井県立科学技術高等学校長
高氏克彦

励してきた。

一昨年から始まった全国工業高等学校長協会によるジュニアマイスター顕彰制度において、本校の認定者累計は159名となり、全国第1位の認定者数となった。また、ゴールドの認定者の累計も、全国トップの60名を数えた（なお、福井県全体の申請数は、全国5番目であった）。

表1 本校のジュニアマイスター認定者数

[全工協会ホームページ、平成15年1月から集計]

期 間	ゴールド	シルバー	合 計
平成13年度年間	38	95	133名
平成14年度前期	22	4	26名
合 計	60	99	159名

この集計結果から見て、決して大規模校とはいえない本校で、資格取得指導において、全国的に見ても素晴らしい成果をあげているとの高い評価をいただくこととなった。この顕彰制度は、今後資格取得を志す生徒にとって、学習意欲をさらに向上させ、取得困難な資格への挑戦意欲を増す、格好の指標となるに違いない。

そこで、以下に資格取得を一つの柱とした「特色ある学校づくり」について紹介したい。

3. 工業系学科での資格取得指導とその意義

資格取得の意義は、繰り返しになるが、ま

ず第1に、生徒の学習意欲の向上である。さらに、これからの技術社会において、その人間が何ができるかを示す指標として、取得した資格がそれを証明することは間違いなく、高校在学中に多くの資格を取得することは価値あることである。昨今の就職難の時代であっても、各企業の人事担当者の方々から、「是非この資格を持っている人材が欲しい。」との声をいただき、全学科挙げての指導に対する評価と受け止めている。また、国立大学の推薦入試の面接時に、「多くの資格を取得したね」と言われ、本人の自信に繋がった例もある。福井県の技術系公務員試験にも合格者を出すなど、資格取得が生徒の進路選択の面において、有利に働いたケースは少なくない。

また、多数の資格取得の重要性もさることながら、高校時代に資格取得のための勉強法を身に付けることも重要である。社会人になってからも、その経験が生かされ、生きた力として働くと確信するからである。生涯学習の第一歩である。

4. 各学科での取り組み

工業5学科それぞれにおいて、カリキュラムに位置付けて全員取得を目指すものと、希望者を募り自主的な学習と補習により合格を目指すものとを分けている。(社)全工協会の主催する「計算技術検定」、「情報技術検定」は前者に、電子電気科の第1種電気工事士や第3種電気主任技術者試験、情報工学科の情報処理技術者試験は後者に当たる。

各学科の専門色の強い資格のみならず、「危険物取扱者」は、どの学科においても取得を奨励している。化学システム科以外の学科においても、多くの「乙種全類危険物取扱者」の資格取得者を出している。

5. 電子電気科の取り組み

平成15年3月の卒業生は、40名全員がジュニアマイスター認定者（ゴールドが34名、シルバーが6名）となる快挙となった。主な認定対象ポイントの資格は、次のとおりである。

表2 平成14年度電子電気科卒業生の資格取得状況

国家資格名	取得者
第二種電気工事士	40名
第一種電気工事士	21名
乙種7類消防設備士	39名
乙種4類消防設備士	16名
乙種全類危険物取扱者	40名
電気工事施工技術者	37名

この他、高校生には超難関とされている第3種電気主任技術者にも、1名の合格者を出している。このような多くの難関資格に多数の合格者を出すことができたのは、科の全職員が一丸となって、始業前、放課後、土日も返上して補習指導に当たり、生徒たちも、それに応えて実に熱心に取り組んだ成果であり、努力の賜物といえる。なお、この目覚しい活躍ぶりは、地元新聞に幾たびか取り上げられ、生徒たちの大きな励みとなった。さらに、それに続く下級生も、同じく大きな成果を挙げている。また、就職状況も良好で、就職内定者は、10月中旬に100%に達した。

このクラスの生徒の中に、特筆したい生徒がいる。この生徒は、本校の自転車部に所属し、2年の時から各種大会に入賞（3年では、インターハイのポイントレースで2位入賞、ジュニアオリンピックカップや三笠宮杯では優勝）を果たしている。今春、自転車競技選手の指導者を志して、鹿屋体育大学に進学した。在学中は、自転車部の早朝練習や、休日を返上した厳しい練習の合間をぬって、資格取得のための地道な努力を重ね、他の生徒と同じく第2種電気工事士や電気工事施工技術

者など数々の資格を取得した。そして、3年の2月には、見事ゴールドの認定を受けた。これは部活動と資格取得をうまく両立させ、文字どおり「文武両道」の模範となった生徒である。

クラス全体の状況を見ても、科の全職員による、実技を伴う実技指導や早朝補習の継続が、生徒の「目的意識」を育て、かつ生徒の「積極性」・「真剣な授業態度」をも育成していることを実感する。普段から遅刻者が少ないなど、クラス内の風紀が守られていることや、どの教科においても、生徒たちが積極的に授業に参加している様子などからである。このことは、主に資格を通しての教科指導が、生徒指導上の効果としてあらわれてきたものと考えられる。

6. 思わぬ波及効果

このような全校挙げての積極的な取り組みは、他にも思わぬ好影響をもたらしている。

現在、機械システム科3年を担任する数学科の教員が、1年の時から自分のクラスの生徒と一緒に資格取得に努めている。2年次に、その担任は、自ら勉強しながらクラスの生徒にも補習を実施し、「乙種危険物」を取得した。それを機に、資格取得を諦めていた生徒や資格に無関心であった生徒が意欲を出し、担任に補習をして欲しいと願い出て、早朝補習が行われることも多くなった。さらに、2年の夏には、その担任は、生徒に交じて専門学科の教員による「第2種電気工事



第2種電気工事士技能試験に向けての実技指導風景

士」の補習を受け、見事合格した。2次の実技試験は、相当の練習を要し、さすがに生徒の方は手が早くて、試験の近くには合格の力をつけていたが、担任はそうはいかず、試験の前日の午後には、生徒が、指導教官の代わりにストップウォッチを持って担任に教えてくれたと聞いている。普通教科の教員である担任が、汗を流し生徒と同じ作業を経験することにより、生徒との人間関係が深まり、クラス経営が非常にうまくいって、生徒指導の面でも思わぬ効果を上げたということである。

ジュニアマイスターのポイント対象には、「実用英語検定」「実用数学技能検定」「日本漢字能力検定」も含まれている。例えば、数学検定では、昨年は、受検者数が例年の2倍を超え、さらに上の級に挑戦するようになってきており、合格率も非常に高くなった。他の検定でも同様であり、工業の専門性を超えた領域でも、生徒たちは着実に学習意欲を向上させている。

7. まとめ

この3月をもって定年退職となられた、本

校の北野左京前校長は、工業教育の一層の活性化と充実を図るとともに、工業高校で学ぶ生徒の人間形成の一助として資格取得を推奨された。折しもジュニアマイスター顕彰制度が発足したことも相まって、以来、「ジュニアマイスターを取りたい!」との抱負を語る生徒が増えてきた。従来は、ただ漠然と「多くの資格を取りたい」と言っていただけであったが、この顕彰制度の、本校での定着ぶりがうかがえる。また、本校を志望する中学生に、「資格を多く取って立派な社会人になるためにこの高校を選んだ」と、志望の動機を

語る生徒が多くなってきている。

資格試験には、合格するか否かといった目標がはっきりしている分、生徒は、目的意識を明確に持てる良さがある。生徒の学習意欲の向上、生徒の人間形成にも大きく寄与していると判断する。

今後は、ジュニアマイスター顕彰制度が、学校以外での場、例えば、大学入試の参考資料として活用されるなど、より一層、実社会等で広く認知され、一定の評価をいただくことができるようになることを願ってやまない。

実習書・準教科書発行一覧

新課程用 15 年度発行

情報技術基礎実習 電子機械実習

新版テキスタイル製品 新版テキスタイル技術 新版カラーリング技術

新課程用 16 年度発行予定

機械実習 1 機械実習 2 電気・電子実習 1 建築実習 1

土木実習 1 土木実習 2 工業化学実習 1 工業管理技術

新課程用 17 年度発行予定

機械実習 3 電気・電子実習 2 電気・電子実習 3

工業化学実習 2 建築実習 2

既 刊

環境工学の基礎 工業英語

定量分析三訂版 定性分析（常量法）改訂版 機器分析改訂版

なお現在発行中の旧課程用実習書は新課程用の発行後に絶版となります
